

平成17年度 第4回豊田市生涯学習審議会 会議録（公開用）

- 【日 時】 平成18年2月20日（月） 午後2時～午後4時
- 【場 所】 市役所西庁舎8階 教育委員会議室
- 【出席者】 （委 員）大内政春（前稲武町代表 前稲武町社会教育委員）
北川吉久（学識経験者）
釘宮順子（子育て支援グループ代表）
久米昭次郎（市民公募委員）
古賀路子（交流館長代表）
後藤冷子（青少年健全育成推進協議会代表）
斉藤秀平（愛知教育大学教授）
柴田富信（学識経験者）
田中清恵（前藤岡町代表 子育てネットワークの会ふじおか）
西原保彦（前旭町代表 前旭町社会教育委員）
深田逸雄（前下山村代表 前下山村社会教育委員）
藤嶋正美（前足助町代表 前足助町社会教育委員）
二村光三（前小原村代表 前小原村社会教育委員）
牧野 篤（名古屋大学大学院助教授）
松浦 崇（市民公募委員）
吉永チズ子（学識経験者）
- （事務局）名倉宣汎（社会部長）
畔柳寿文（生涯学習課長） 長谷川昇（生涯学習課副主幹）
鈴村博之（生涯学習課係長） 加藤達志（生涯学習課主査）
- （関係課）水野孝之（自治振興課長） 小野修市（次世代育成課長）
榊原昌子（学校教育課指導主事） 粕谷濱夫（図書館長）

- 【次 第】 1 あいさつ
- 2 議 題
- （1）調査研究の報告
- 都市内分権と生涯学習の役割 資料1
- ・ 調査概要の説明（事務局）
 - ・ 調査の報告（牧野委員）
- 交流館と学校図書館等との連携（斉藤委員）資料2
- ・ 調査概要の説明（事務局）
 - ・ 調査の報告（斉藤委員）
- （2）その他
- 3 報 告
- ・ 平成18年度の交流館の運営方針（事務局）
- 4 連絡事項
- ・ 孫への手紙について

1 あいさつ

会 長 : 審議会では調査研究として2つのテーマを議論しているが、1年目ということもあり、研究領域としての基礎がまだできていない。2年間の調査で、委員のみなさんの意見を聞き、基礎を築いていけると良い。

社会部長 : 保見交流館、逢妻交流館の建て替えを進めている。また合併町村の交流館ではソフト面の充実が望まれ、来年度から4館に主事を配置し、生涯学習施設の充実を図りたい。

2 議 題

(1) 調査研究の報告

都市内分権と生涯学習の役割 資料1

事務局 : (調査概要の説明 記述省略)

委員A : (調査の報告 記述省略)

委員B : 藤岡地区南部に交流館が新設されるそうだが、藤岡地区は若い人が多く、昼は子育て中のお母さんが多いため、そういう方が利用しやすい施設になると良い。現在は児童館が2館あり、お母さん方によく利用されている。交流館との連携、機能分担ができると良い。南部の方は猿投北交流館を利用している人も多い。

次世代育成課 : 藤岡地区の2児童館では、合わせて10人の児童厚生員に活動していただいている。

委員C : 旧町村では農水省の補助金で建設された施設が多くあり、これらをどう活用するかが課題である。生涯学習システム機構の位置付けの中で、農政課にも参加してもらい検討する必要がある。

会 長 : 旧町村の交流館の運営にあたっては、支所と生涯学習課が連携を密にする必要がある。また旧町村では合併により社会教育委員がいなくなりそれと兼務している公民館運営審議会も消滅してしまった。それに代わる組織を検討する必要がある。

委員D : 下山地区では、農ライフ創生センター下山研修所が開設する。旧豊田市の退職者の生きがいづくりや地元の活性化になると良い。

委員E : 旭交流館では、来年度から2名の人員を確保するため、地元で募集している。

委員F : 安心、安全、快適という視点のまちづくりが必要と感じている。

委員G : 小原地区では地区全体というより大字単位での活動が活発であり、区民会館を利用することが多い。

委員H : 稲武地区では交流館がないため、基幹集落センターにその機能をもたせている。稲武地区は豊田市の北の玄関口として、滞在型市民農園やどんぐり工房など体験型の観光拠点としての役割を担っていきたい。

会 長 : 都市化されたところはコミュニティの形成が重要であるが、旧町村では既

に築かれており、それを大切にすまちづくりが必要である。

社会部長：都市内分権の中で支所が独立した組織として地域づくりに取り組むことが求められる。市全体でトータルのやるものは本庁でやっていくが、地域でできることは地域に任せていきたい。

交流館と学校図書館等との連携 資料2

事務局：(調査概要の説明 記述省略)

委員I：(調査の報告 記述省略)

学校教育課：司書など人を配置している図書館は、子どもたちの相談に対応できるのでとても価値があると思う。「チャレンジ&ドリーム事業」でボランティアに引き継いでやっているところもある。

委員J：子どもと親がともに育ち合うことが重要である。

図書館：中央図書館を拠点にコミュニティセンターや交流館などの図書室をネットワーク館と呼んでいる。またH18年度に子ども読書活動の推進計画(仮称)を策定する予定であり、地域と家庭の両方で読書の推進を図りたい。

委員J：子育てサロンの利用者が遅い時間に子連れで図書コーナーで読み聞かせをする姿が多くなった。

委員K：各学校でボランティアの読み聞かせを募集していると聞いている。学校図書館のネットワーク化は進んでいいのか。

図書館：学校間のネットワーク化はできているが、物流は予算がとれず行っていない。

委員L：交流館の図書コーナーはシステム化されスムーズになったが、使いこなせない人には職員が声をかけ対話の中で交流を図っている。子どもの調べ学習に対応した統計データのコーナーがあると良い。

委員M：中学校では本好きの子と本離れの子がはっきりしており、本好きの子は情報交換をしっかりとっていると感じる。また図書館や交流館の廃棄本を小中学校に持ってくることはできるか。

図書館：基本的には学校で予算をとっているため、その中で対応することになるが、それでも不足する場合は補充することができるかもしれない。

委員C：これまで出てきた課題を報告書にまとめてほしい。また学校司書をせめて小中学校に一人配置できると良い。

委員J：読書は本の知識だけでなく人からの影響も大きい。

事務局：生涯学習審議会の役割を考えると、社会教育という立場で交流館と学校や中央図書館との連携を考えたい。学校司書の配置については、こういう体制が望ましいということで教育委員会に働きかけたい。

委員G：学校の先生では図書の分類は難しい。司書の資格を持った人を各学校に一人を配置することを必須にしたらどうか。

社会部長：予算がないというのは言い訳で、必要性がないから予算がつかないのであ

る。今回の調査研究の中で何が必要なのかを盛り込んでほしい。2カ年の調査研究の成果を実行に移し、実績ができればさらに予算がつくと思う。

委員N : 学校の調べ学習で交流館を訪れる子どもは増えているが、現在の交流館の図書コーナーでは図書が少なすぎる。子どもたちがその場で問題点を解決するためには司書業務ができる人がほしい。高橋交流館の子ども図書館はボランティアの人に運営してもらっているが、こういった施設が市内の地域ごとにできると良い。

委員O : 3年前に調査で旧市内の交流館を訪問した時、図書の貸し出しを含め主事の負担が大きいと感じた。司書業務ができる人がいると良い。

3 報 告

平成18年度の交流館の運営方針 資料3

事務局 : (説明 記述省略)

委員G : 資料では「モノづくり」がカタカナで記述してあるが、ひらがたではないのか。

事務局 : 資料は教育行政計画をもとに作成しているため、その記述に合わせている。

4 連絡事項

孫への手紙について

事務局 : (説明 記述省略)